



ショートコメント

★★★★

Data 2025-75

監督・編集：アシュレイ・セイ
ビン、デイヴィッド・レッドモン

出演：キム・ヨンマン／ショ
ーン・ブライス・ウィ
リアムズ／アレック
ス・ロス・ペリー／デ
イエゴ・ムラーカ／エ
ンリコ・ティロッタ

キムズビデオ (Kim's VIDEO)

2023 年／アメリカ映画
配給：ラビットハウス、ミュート／88 分

2025（令和 7）年 8 月 15 日鑑賞

テアトル梅田

👁️👁️ みどころ

私は全然知らなかったが、ニューヨークのイーストビレッジには韓国人のキム・ヨンマンが経営する「キムズビデオ」があったらしい。しかし、彼は 2008 年に膨大なコレクションをイタリアのシチリア島にあるサレーミ市に譲渡を決意！武士が社会から消えてしまったと同じように、ビデオテープの時代が終わる中、それは時代の流れだから仕方なし！

誰もがそう思うはずだが、シチリアの倉庫から助けを求める“映画たちの声”を聞いたという、元ビデオ会員のデイヴィッド・レッドモンは、『アルゴ』（12 年）（『シネマ 30』10 頁）で観た「アルゴ作戦」そっくりの、映画撮影に偽装したビデオテープ奪還作戦を決行！

これは、弁護士 51 年のベテランの私の目には明らかな窃盗罪だが、「アルゴ作戦」と同じく、また大泥棒の石川五右衛門と同じく、規模がでかく庶民の喝采を浴びる窃盗ならそれもオーケー！？そんなバカな！と思いつつ、アレヨ、アレヨの大展開をしっかり楽しみたい。

—— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— *

◆「映画オタク」は世界中に多いが、韓国系アメリカ移民のキム・ヨンマン氏は「ビデオ・オタク」だったらしい。それも半端ではなく、1980 年代にはニューヨークのイーストビレッジにレンタルビデオショップ「キムズビデオ」を構え、5 万 5 千本にものぼる唯一無二のレアビデオコレクションを誇っていたそうだからすごい。その顧客は膨大な数に上り、かのコーエン兄弟も通い詰めていたらしい。しかし彼は一体なぜそんな事業を？

◆それも興味深いが、火薬や鉄砲の誕生によって刀で戦う武士が社会から消滅してしまったのと同じように、世界を席卷していたビデオテープも、次の技術革新によって消滅していく運命に！すると、ニューヨークのイーストビレッジにあった、あの「キムズビデオ」は？

かねてから言われていた、ビデオテープの“2025 年問題”が遂に現実となる中、個人的なビデオテープの収集家としてかなりの本数をキープしている私はまさに今“2025 年問題”に直面しているが、さあ、キム氏は『キムズビデオ』の危機にどう対応したの？

◆時代が変遷していく中、「キムズビデオ」が閉店したのは2008 年。経営者のキム氏は、価値ある膨大なコレクションをイタリアのシチリア島にあるサミーレ市に、展示することを条件に譲渡することを決意したそう。私見によれば、それはまっとうな検討とまっとうなプロセスを経た上でのまっとうな結論だ。そして、彼のコレクションは長旅を終えシチリア島に到着したらしい。

ところが、数年後に「キムズビデオ」の元会員であるデイヴィッド・レッドモンが現地を訪れると、活用されずに埃だらけの湿った倉庫でひっそりと息を潜める映画たちを発見したから、アレレ、

アレレ。そして、倉庫から助けを求める“映画たちの声”にかきたてられた彼は、映画たちを救うべく、警察署長や当時の市長への取材、その裏で暗躍するマフィアへと追跡を続け、ついに映画たちを救うための荒唐無稽な奪還作戦を決意したそう。さあ、そこから本作が見せるハチャメチャな展開は如何に？



『キムズビデオ』

ヒューマン・トラスト・シネマ・有楽町、ホワイト・シネ・クイント・ほか
全国順次公開中

提供：ミュート、ラビットハウス

配給：ラビットハウス、ミュート

© Carnavalesque Film 2023

◆ジョージ・クルーニーとベン・アフレックが共演した『アルゴ』（12 年）（『シネマ 30』10 頁）は、第 85 回アカデミー賞で作品賞、脚色賞、編集賞を受賞したメチャ面白い映画だった。同作では、1979 年に起きた在イランアメリカ大使館占拠事件の解決のために、アメリカの CIA が思いついた“とんでもないウラの作戦”が描かれていた。それは「アルゴ

作戦」とは、SF映画撮影のためと偽ってクルーを派遣するという国家的詐欺に、ハリウッドも加担するというものだったから、とにかくすごい。

他方、倉庫から助けを求める「映画たちの声」にかき立てられたという「キムズビデオ」の元会員だったデイヴィッドが彼らを救うために計画した荒唐無稽な奪還作戦は、まさにこの「アルゴ作戦」と同じ。つまり、カーニバルの夜に「映画の撮影」だと偽り、アルフレッド・ヒッチコックやチャールズ・チャップリン、ジャン＝リュック・ゴダール、ジャッキー・チェンといった映画の「精霊」たちを召喚し、倉庫から映画たちを開放するというものだった。

「ウソは泥棒の始まり」と言われる通り、ウソは絶対にダメなはずだが、ひょっとして「アルゴ作戦」のように規模が大きくなれば正しいものに転化するの？そんな馬鹿な！？そう思いつつ本作を観ていると・・・。

◆日本は8/15前後はお盆休みだが、ウクライナ戦争をめぐる米露間交渉にそんなものはない！それを証明するかのように、8/16（日本時間）にはアメリカ北部のアラスカ州アンカレッジの米軍基地で、ウクライナ戦争を巡るトランプ大統領とプーチン大統領との交渉が行われた。両大統領の対面による会見は、2022年2/22にロシアがウクライナへの全面侵攻を開始して以降初めて。またプーチン氏の訪米は約10年ぶりだが、残念ながら交渉は終始ロシアペースで進んだようで、プーチン大統領の一方的勝利！？

しかし、本作に見るデイヴィッドのビデオテープ奪還作戦は映画の「精霊」たちの応援もあり、少なくとも物理的には成功裡に終わったからすごい。しかし、弁護士の私の目から見れば、これは明らかな窃盗罪だ。もっとも、同じ窃盗でも金持ちから大量の金銭を奪い、それを貧乏人に分け与えた石川五右衛門の行為は世間の拍手を浴びたから、それと同じようにデイヴィッドによるシチリア島の倉庫からの大量のビデオテープ奪還作戦もサレーミ市長たちが認めてくれればそれでOK！？そうはいかないはずだと、弁護士歴50年の私は見ていたが、いやいや「事実は小説よりも奇なり」とはまさに本作！若かりし頃に「キムズビデオ」を設立したキム氏も「キムズビデオ」の経営はやめたものの今なお健在で、本作ラストにはその姿を見せてくれる。さあ、デイヴィッドによるハチャメチャなビデオテープ奪還作戦について、彼はどう語るの？それをしっかり見届けたい。

◆本作ラストを見ると、ニューヨークの某所には新たな「レンタルビデオ店」がオープンしたようだから、めでたし、めでたしだが、当然そこにはさまざまな課題も！他方、ビデオテープの“2025年問題”はどうしようもないもの。私の自宅には数百本以上のビデオテープが書棚に収納されているが、その解決のためには、本作と同じように、何らかの思い切った作戦が不可欠だが・・・。

2025（令和7）年8月19日記